

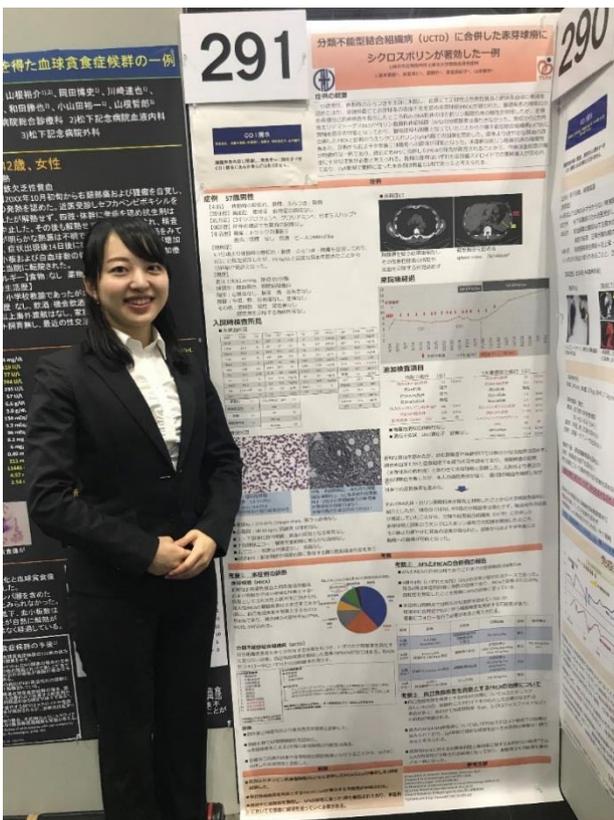
医学生・研修医のための日本内科学会ことはじめ 2019 において

当院研修医及び指導医が賞を受賞しました！

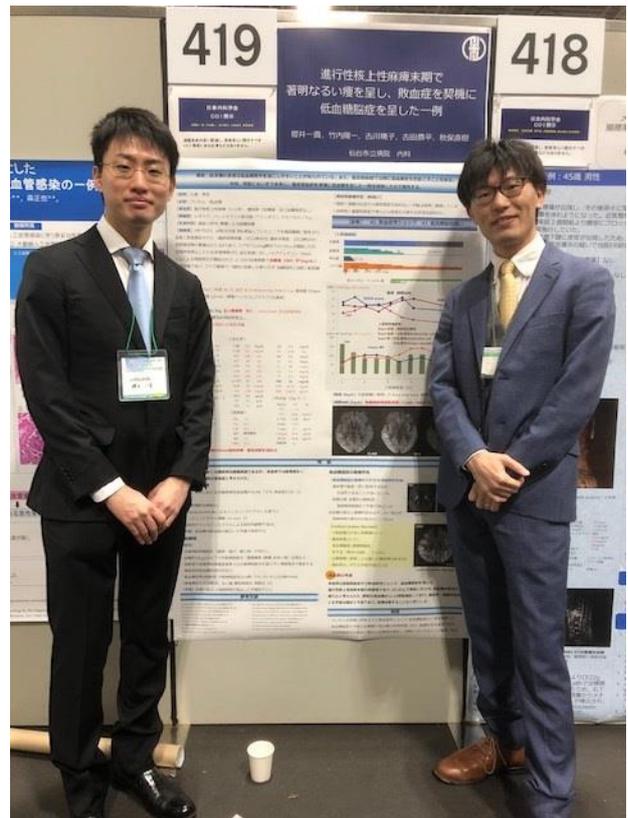
2019年4月27日(土)に名古屋市で開催された第116回日本内科学会総会「医学生・研修医のための日本内科学会ことはじめ 2019」に、当院初期研修医の齋木実結先生、櫻井一貴先生、矢内敦先生(五十音順)が演題発表を行い、櫻井先生の発表演題が「優秀演題賞」に選定されるとともに指導医である竹内陽一先生が「優秀指導教官賞」を受賞しました。

3名の先生たちは、日々の研修日程と並行して演題発表の準備を行い全国規模の学会で研究成果を堂々と発表しました。

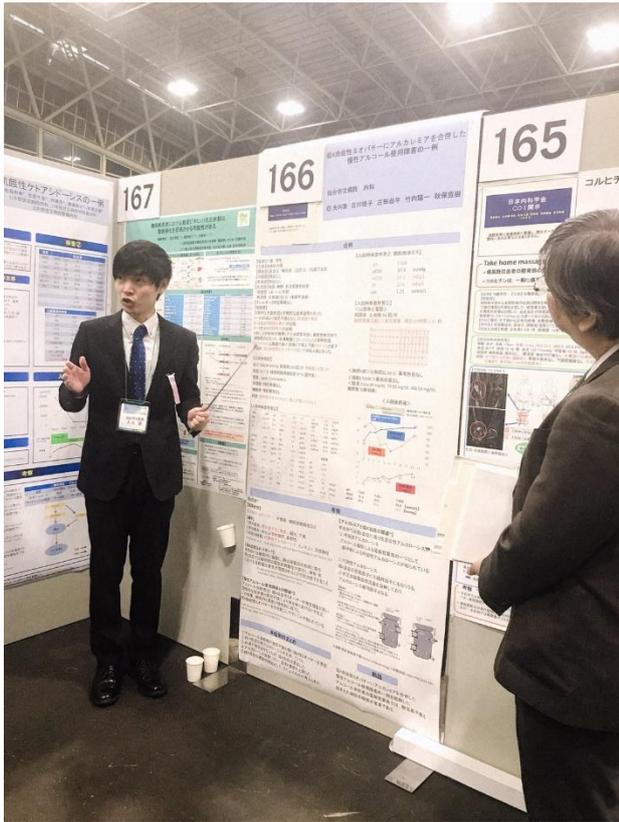
また、齋木先生は約460名の参加者のうち4名しか選ばれないドクターGさながらの実践内科塾2019の討論に参加し、「優秀討論者」に選定されました。



齋木先生



櫻井先生(左)と指導医・竹内先生(右)



矢内先生



参加した研修医

●各先生から参加されての感想等をいただきました

〈竹内 陽一先生（指導医）〉

全国の優秀な研修医としてのぎを削る、初期研修 2 年間でそのような機会はまれですが、この「日本内科学会ことはじめ」はまさにそんな場です。

今回は当院から 3 名の初期研修医の先生が一年生時に経験した貴重な症例を深掘りして精一杯まとめ上げ発表しました。日々の臨床とは一味違う刺激を感じることができ、それぞれの研修医の先生のその先につながる良い体験となったのではないのでしょうか。

熱を込めて発表する 3 名の先生たちを見て当院が積極的で気力溢れる研修医たちの集う研修病院であることを再認識しました。

ぜひこの経験を次年度の研修医先生へしっかりとバトンパスしていってくれたら、と思います。

〈齋木 実結先生〉

内科ことはじめではポスター発表と内科実践塾への登壇を経験しました。

ポスター発表のきっかけは昨年末に同期と一緒に出そうと声をかけてもらったことです。未経験のポスター作成にはかなりの時間を要しましたが、指導医の先生方のおかげでなんとか形にすることができました。振り返ってみれば確実に自分のステップアップにつながる良い経験が出来たと思っております。

また今回は偶然、内科実践塾へ登壇する機会を頂きました。名高い病院の研修医に囲まれ、初めは恐縮していましたが、お題は「中高年男性の浮腫み」であり、日々の診療での経験も後押しし積極的に回答することができました。最終的には優秀討論者賞を頂くことができ、自信に繋がりました。

最後になりますが、今回お忙しい中ご指導して下さった先生方に心からの御礼を申し上げます。指導熱心な先生方と志の高い同期に囲まれて仕事ができる今の環境に感謝し、今後も自己研鑽に励んで参りたいと思っております。

〈櫻井 一貴先生〉

この度は『医学生研修医の日本内科学会ことはじめ 2019 名古屋』でポスター発表を行い、優秀演題賞を受賞いたしました。御指導いただきました先生方はじめ関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。

実臨床ではチームとして時々刻々と変化する重症病態に対して、適切な治療方針を検討しました。また、学会発表に向けて多くの学術論文も検討したことで、知見をより深いレベルで理解することができました。今回の経験を今後の日常診療にしっかりと活かす所存です。

当院では日常診療だけでなく、学会発表の機会もあります。指導医の先生方から手厚い指導を受けることができ、充実した研修生活を送れると思っております。研修医一同お待ちしております。

〈矢内 敦先生〉

「経験症例をまとめて発表する」研修医には時間と労力を要することですが、それでも間違いなく取り組むべき価値のあることです。日々の診療だけでは見えてこない患者さんの問題点を文献的知見から浮き彫りにする面白さを知り、何度も議論を重ねるなかで優秀な指導医の考え方を模倣して自身のアセスメント能力を磨く絶好の機会です。

当院では全国規模の学会を含め、公式発表のチャンスは幾度となく巡ってきます。必要なのは本人のやる気だけで指導医の熱意と発表までのサポート体制は万全です。

もちろん私たちの希望診療科などは関係ありません。全国レベルの優秀な医師の発表に刺激を受けること、それ自体が大きな経験値となって自分に還元されます。病院全体でそういう雰囲気当たり前に浸透している環境下で研修すべきだと私は考えています。

受賞された皆様、真におめでとうございます！

仙台市立病院では初期研修医の育成に尽力しています。
このような機会があれば、今後も積極的に取り組んでまいります！